



## 取扱説明書

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

ご使用になる前によくお読みのうえ正しくお使いください。

また、**取扱説明書は必ず保管してください。**

本製品を他のお客さまにお譲りになるときには、必ず取扱説明書もあわせてお渡しください。

材料・部材は充分に選別しておりますが、主な素材が繊維であるため、使用頻度にもよりますがお使い始めてから約3年を耐用年数とお考えください。



たて抱っこ対面



よこ抱っこ



たて抱っこ前向き



腰抱っこ



おんぶ

## 動画はこちらからご覧いただけます。

(下記 URL のラッキー工業公式 Youtube ページにリンクします。)

<https://www.youtube.com/user/luckyhimobaby>



### 使用できる お子さまの月齢

※お子さまの発育により同じ月齢でも  
体格や体重に個人差があります。

よこ抱っこ

生後10日～首がすわる乳児期(4ヵ月頃)まで

たて抱っこ対面

首がすわった乳児期(4ヵ月頃)～24ヵ月(体重13kg)まで

たて抱っこ前向き

腰がすわってから(7ヵ月頃)～24ヵ月(体重13kg)まで

腰抱っこ

腰がすわってから(7ヵ月頃)～36ヵ月(体重15kg)まで

おんぶ

首がすわった乳児期(4ヵ月頃)～36ヵ月(体重15kg)まで

# 安全にお使いいただくために

安全にお使いいただくために、使用前に必ず取扱説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。

## 警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

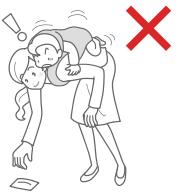
- お子さまが開口部から落下するおそれがあります。体を傾ける際には、お子さまが落下しないよう手で支えてください。また、頭が下向きにならないよう腰を曲げるのではなく、膝を曲げるようにしてください。



- 正しく調整し、パックルなどの固定箇所を確実に締めてください。お子さまが落下するおそれがあります。



- 使用中に大きく前かがみしないでください。お子さまが滑り落ちる可能性があります。



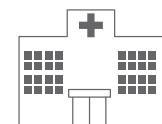
- よこ抱っこ時は、お子さまを必ず手で支えて使用してください。ハンモック状態のため、側方傾斜時にお子さまの頭が下になったり、前傾時に使用者の体から離れた状態になります。
- よこ抱っこ時(首のすわらない乳児)の使用時には、必ずセーフティボード角度を使用してください。



- 生後4ヶ月未満の乳児は保護者の体に顔を強く押し当てるなど窒息するおそれがあります。
- 乳幼児を保護者の体に強く縛り付けずに、頭部を動かす余裕があるように装着してください。
- お子さまの気道をふさぐことがないなど、状態に注意しながら使用してください。



- 早産児及び呼吸器疾患等のあるお子さまへは使用しないでください。ご使用については医師に相談してください。



## 注意

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が生じる可能性が想定される内容を示します。

- 着脱時は、可能な限り低い姿勢や安全な場所で行うようにしてください。他の人に介添えいただいくとより安全です。



- おんぶ時は、目が届きにくくなりますので、特に注意してください。



- お子さまがそり返したり、動いて安定しない場合は使用しないでください。



- 使用前にパックル等の固定部が確実にとめられていることを確認してください。特に背中のパックルについては、パックルがとまっているか、必ず確認してください。
- 装着後も緩みがないかを確認してください。



- 使用前には、やぶれ、ほつれ、傷、パックルなどが破損していないか確認してください。また、破損している場合は使用しないでください。



- 抱っこ時は、お子さまの頭で前方、特に足元の視界が妨げられないよう装着し、歩行時も注意してください。



- パックルの開口部またはすき間にお子さまの手指を入れないように注意してください。すき間に指が入って抜けなくなったり、傷害の危険性があります。未使用時もパックルが開口していないよう、はめ込んでおくようにしてください。



- 授乳後30分間位はおなかを圧迫することがあり、消化吸収を助けるために、使用しないでください。
- 連続して使用する時は、体調の変化や装着状況を確認する必要があるため、2時間以下の使用にしてください。
- 体調がすぐれない時や、体に痛みを感じる時は、使用しないでください。



- 飛行機、車、自転車、バイクでは使用しないでください。



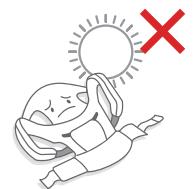
- 料理、家事の時は、おんぶで使用してください。火気には注意し、使用中に大きく前かがみしないでください。また、思ひぬ事故につながるおそれがあるため、抱っこでの使用はしないでください。



- 汗や水で湿った状態で強い摩擦をうけると、他に移染するおそれがあります。



- 直射日光のある場所に保管しないでください。また車内など高温になりやすい場所での保管はしないでください。(劣化や変色することがあります)

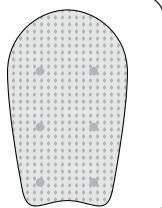


# 全体図

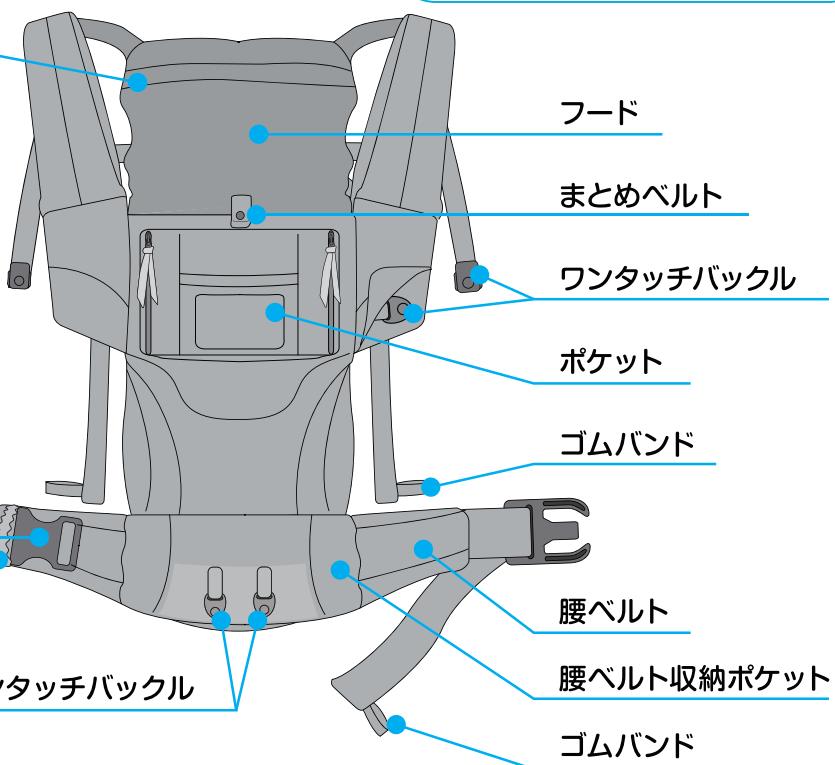
## 表 側

### ファスナー

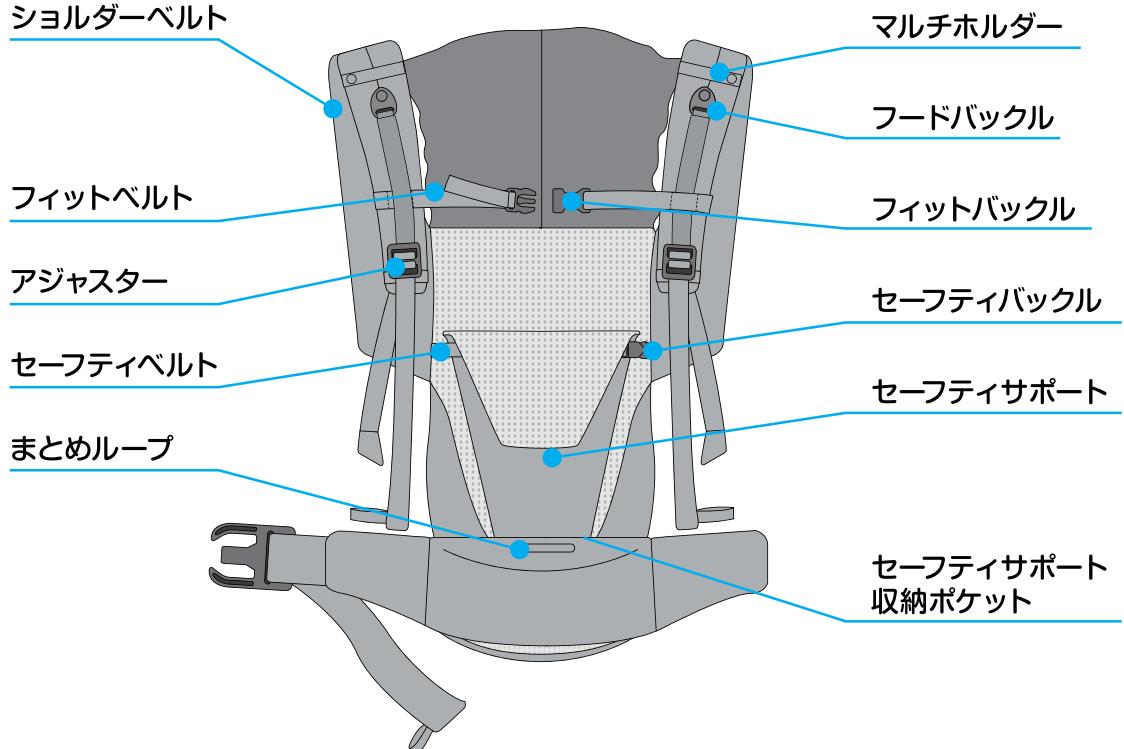
よこ抱っこの際は、ここにセーフティボードを入れて使用してください。  
また保冷・保温ジェルを入れることもできます。



【付属品】  
セーフティ  
ボード



## 裏 側



★箱から出したら、すぐに使えます。  
本品は、あらかじめ“よこ抱っこ”ができるよう  
にセットされています。  
※セーフティボードをセットし、各ベルトの長さ  
は使用者の体に合わせて調節してください。

# よこ抱っこ

生後10日～首がすわる乳児期(4ヵ月頃)まで  
ショルダーベルトのたすき掛けは右肩・左肩のどちらでも使用できます。



セーフティボードをセットします。  
フードのファスナーを開けて奥まで入れてファスナーを閉めます。



ショルダーベルトをセットします。  
左右のショルダーベルトのワンタッチバックルを、腰ベルトのセンターにあるよこ抱っこ用ワンタッチバックルにそれぞれとめます。バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。



腰ベルトを収納します。  
腰ベルトの中央部の腰ベルト収納ポケットに、左右の腰ベルト先を表側に折りたたんで、収納します。



フードバックルをとめます。  
バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。



おさまをのせる前のベルトの長さ調節  
肩にたすき掛けに掛け、お子さまの頭部が保護者の胸に、お尻がおへそあたりの位置にくるよう斜めにアジャスターで長さを調節しておきます。余ったベルトはゴムバンドでまとめておきます。

※アドバイスのショルダーベルトの調節、ゴムバンドを参照ください。



お子さまをのせる準備の完了です。



お子さまをのせます。  
お子さまののせおろしは、安全な場所でおこなってください。



セーフティサポートをセットします。  
お子さまをのせて、セーフティサポートにセーフティベルトを通してバックルをとめます。セーフティベルトの締めすぎに注意してください。  
バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。

※アドバイスのセーフティベルトを参照ください。



フィットバックルをとめます。  
バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。  
フィットベルトがお子さまに当たらない位置に移動したり、ベルトに挟んだりしてしてください。



お子さまを抱きあげます。  
左右のショルダーベルトを重ねて肩にたすき掛けに掛け、頭部とお尻を手で支えて状態をおこします。



よこ抱っこ完了です。  
お子さまの頭部が保護者の胸に、お尻がおへそあたりの位置にくるよう斜めに支えます。  
よこ抱っこ時は、足元が見えにくくなりますので歩行時には注意してください。

## ●よこ抱っこの降ろし方



装着手順の⑩から逆手順ではじしてください。  
手でお子さまをささえながら、ショルダーベルトを肩からはずします。  
その後は装着時の逆手順ではじみます。  
お子さまを降ろす時は、安全な場所でおこなってください。

## ●たて抱っこ対面・たて抱っこ前向き・おんぶ・腰抱っこの準備



セーフティボードを抜き取ります。



フードを収納しておきます。



ワンタッチバックルをとめます。  
バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。



裏返して広げます。  
セーフティベルトは外しておきます。

→ **たて抱っこ対面⑤に続く**

→ **おんぶ⑤に続く**

→ **たて抱っこ前向き⑤に続く**

→ **腰抱っこ⑤に続く**

## たて抱っこ対面 首がすわった乳児期(4ヵ月頃)～24ヵ月(体重13kg)まで



セーフティサポートを収納します。  
セーフティサポートをセーフティサポート収納ポケットにたたんで入れます。  
アドバイスのセーフティサポート収納ポケットを参照ください。



腰ベルトをとめます。  
腰骨の上周りでフィットするようにバックルでとめます。腰ベルトの腰ベルトループにバックルを通してとめます。余ったベルトはゴムバンドでまとめておきます。バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。

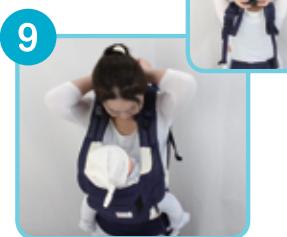
※アドバイスの腰ベルト、腰ベルトループ、ゴムバンドを参考ください。



お子さまをのせます。  
お子さまを抱き寄せ、抱っこひもにまたがせます。



ショルダーベルトを肩に掛ける。  
片手でお子さまを支えながら、ショルダーベルトを片側づつ肩に掛けます。



フィットバックルをとめます。  
首の後ろでフィットバックルをとめます。バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。  
アドバイスのフィットベルトがとめにくい方を参照ください。



セーフティベルトをとめます。  
使用者とお子さまの間にセーフティベルトを通してバックルをとめます。セーフティベルトの締めすぎに注意してください。バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。

※アドバイスのセーフティベルトを参照ください。



ショルダーベルトの調節  
お子さまとの隙間が大きい場合は、ベルトを短くします。  
調節して余ったショルダーベルトはゴムバンドでまとめておきます。

※アドバイスのショルダーベルトの調節、ゴムバンドを参考ください。



たて抱っこ対面の完了です。  
成長によって腕が出るスタイルが違います。まだ小さくて腕が出ないお子さまは腕を出す必要はありません。  
腕を出して脇下が圧迫されないようになったら腕を出して使用してください。

## たて抱っこ前向き 腰がすわってから(7ヵ月頃)～24ヵ月(体重13kg)まで



セーフティサポートを収納します。  
セーフティサポートをセーフティサポート収納ポケットにたたんで入れます。  
アドバイスのセーフティサポート収納ポケットを参照ください。



腰ベルトをとめます。  
腰骨の上周りでフィットするようにバックルでとめます。腰ベルトの腰ベルトループにバックルを通してとめます。余ったベルトはゴムバンドでまとめておきます。バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。

※アドバイスの腰ベルト、腰ベルトループ、ゴムバンドを参考ください。



お子さまをのせます。  
お子さまを抱き寄せ、抱っこひもにまたがせます。



ショルダーベルトを肩に掛ける。  
片手でお子さまを支えながら、ショルダーベルトを片側づつ肩に掛けます。



フィットバックルをとめます。  
首の後ろでフィットバックルをとめます。バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。  
アドバイスのフィットベルトがとめにくい方を参照ください。



セーフティベルトをとめます。  
使用者とお子さまの間にセーフティベルトを通してバックルをとめます。セーフティベルトの締めすぎに注意してください。バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。

※アドバイスのセーフティベルトを参照ください。



ショルダーベルトの調節  
お子さまとの隙間が大きい場合は、ベルトを短くします。  
調節して余ったショルダーベルトはゴムバンドでまとめておきます。

※アドバイスのショルダーベルトの調節、ゴムバンドを参考ください。



たて抱っこ前向きの完了です。  
成長によって腕が出るスタイルが違います。まだ小さくて腕が出ないお子さまは腕を出す必要はありません。  
腕を出して脇下が圧迫されないようになったら腕を出して使用してください。



**フード**  
お子さまが寝たときや日除けとして使用します。



**フィットベルト**  
使用者の体に合わせて上下、左右の幅がかえられます。

**ショルダーベルトのクロス掛け**  
よりしっかり装着したい方やフィットベルトバックルがとめられない方におすすめします。  
ショルダーベルトを背中でクロスするようにワンタッチバックルをとめます。バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。



**ショルダーベルトのクロス掛け**  
よりしっかり装着したい方やフィットベルトバックルがとめられない方におすすめします。  
ショルダーベルトを背中でクロスするようにワンタッチバックルをとめます。バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。



**フィットベルト**  
使用者の体に合わせて上下、左右の幅がかえられます。

## ●たて抱っこ対面の降ろし方



装着手順の⑩から逆手順ではずしていきます。  
片手でお子さまをささえ、もう片方の手でフィットバックルを外します。その後は装着時の逆手順で行い降ろしてください。  
お子さまを降ろす時は、安全な場所でおこなってください。

## ●たて抱っこ前向きの降ろし方



装着手順の⑩から逆手順ではずしていきます。  
片手でお子さまをささえ、もう片方の手でフィットバックルを外します。その後は装着時の逆手順で行い降ろしてください。  
お子さまを降ろす時は、安全な場所でおこなってください。

5



6



7



8



### お子さまをのせます。

セーフティサポートにセーフティベルトを通してバックルをとめます。セーフティベルトの締めすぎに注意してください。バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。

※アドバイスのセーフティベルトを参照ください。

### 腰ベルトをとめます。

腰骨の上周りでフィットするようにバックルでとめます。腰ベルトの腰ベルトループにバックルを通してとめます。余ったベルトはゴムバンドでまとめておきます。バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。

※アドバイスの腰ベルト、腰ベルトループ、ゴムバンドを参照ください。

### ショルダーベルトを肩にかける。

背中に引き寄せ肩にかけます。

### フィットベルトをとめます。

9



10



### ショルダーベルトの調節

お子さまでの隙間が大きい場合は、ベルトを短くします。調節して余ったショルダーベルトはゴムバンドでまとめておきます。

※アドバイスのショルダーベルトの調節、ゴムバンドを参照ください。

### おんぶの完了です。

成長によって腕の出るスタイルが違います。まだ小さくて腕がないお子さまは腕を出す必要はありません。腕を出して脇下が圧迫されないようになったら腕を出して使用してください。

### フード

お子さまが寝たときや日除けとして使用します。

### フィットベルト

使用者の体に合わせて上下、左右の幅がかえられます。

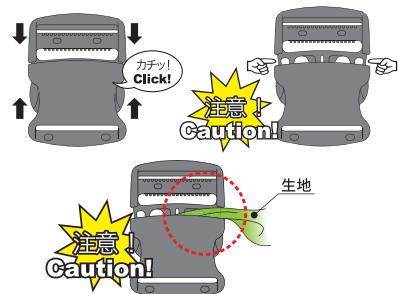
## ●おんぶの降ろし方



装着手順の⑧から逆手順ではずしていきます。フィットバックルをはずし、ショルダーベルトを持って降ろしてください。その後は装着時の逆手順ではします。※お子さまを降ろす時は、安全な場所でおこなってください。他の人に手伝ってもらうとより安全です。

## バックル使用上の注意

- バックルを使用する際は、必ずカチッと音がする最後まで差し込んだことを確認してください。
- 正しく組まれない状態で使用しますと、使用中バックルが外れ、お子さまの落下事故につながるおそれがあります。
- バックルを差し込んだ際に、生地等異物を挟んでいないことを確認してください。



# 腰抱っこ

腰がすわってから（7ヵ月頃）～36ヵ月（体重15kg）まで  
右抱っこ、左抱っこどちらでも使用できます。ここでは右抱っこでの説明です。



## セーフティサポートを収納します。

セーフティサポートをセーフティサポート収納ポケットにたたんで入れます。

アドバイスのセーフティサポート収納ポケットを参照ください。



## 腰ベルトをとめます。

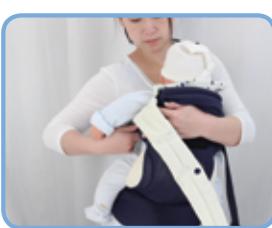
腰骨の上周りでフィットするようにバックルでとめます。腰ベルトの腰ベルトループにバックルを通してとめます。余ったベルトはゴムバンドでまとめておきます。バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。

※アドバイスの腰ベルト、腰ベルトループ、ゴムバンドを参照ください。



## お子さまをのせます。

お子さまを抱き寄せ、抱っこひもにまたがせます。



## 左側ショルダーベルトをとめます。

お子さまを手で支えながら、左側のショルダーベルトを左肩にななめかけになるように背中にまわし、支える手を持ちかえて右手でつかんで本体右側のワンタッチバックルにとめます。

ショルダーベルトをゆるみのないよう調節します。バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。

※アドバイスのショルダーベルトの調節、ゴムバンドを参照ください。



## 右側ショルダーベルトをとめます。

片手でお子さまを支えながら、右側のショルダーベルトを使用者の右腋下を通るようにして背中に回し、本体左側のワンタッチバックルにとめます。バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。



## セーフティベルトをとめます。

使用者とお子さまの間にセーフティベルトを通してバックルをとめます。セーフティベルトの締めすぎに注意してください。バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。

※アドバイスセーフティベルトを参照ください。

## ショルダーベルトの調節

お子さまとの隙間が大きい場合は、ベルトを短くします。調節して余ったショルダーベルトはゴムバンドでまとめておきます。

※アドバイスのショルダーベルトの調節、ゴムバンドを参照ください。

## 腰抱っこ完了です。

成長によって腕の出るスタイルが違います。  
まだ小さくて腕がでないお子さまは腕を出す必要はありません。  
腕を出して腋下が圧迫されないようになつたら腕を出して使用してください。使用中はお子さまを手で支えてください。

## ●腰抱っこの降ろし方



装着手順の⑨から逆手順ではじめます。  
片手でお子さまをささえ、もう片方の手でフィットバックルを外します。その後は装着時の逆手順で行い降ろしてください。

お子さまを降ろす時は、安全な場所でおこなってください。

# それぞれの抱っこスタイルの特徴とチェック項目

<b>よこ抱っこ</b> <p>新生児抱っこの中でも最も気をつける 必要がある首と背中をしっかりと サポートできます。 また新生児のおなかを圧迫しないで腹式呼吸の妨げにもなりません。</p>	<p><b>お子さまの角度はバウンサーのように斜め30度が理想です。</b> (お子さまの頭が使用者の胸あたりに、足側はおへそあたりの位置で抱いてください。)</p> <p><b>お子さまの足はM字になるようにしてください。</b> お子さまの足が使用者のおなかと抱っこひもに挟まれないように気をつけてください。</p> <p><b>肩の上に乗った2本のショルダーベルトは重ねてください。</b> (2本のベルトが横に並んだ状態だと肩先からズレ落ちてしまう可能性があります。)</p> <p>※よこ抱っこ際は、両手でお子さまを支えてください。</p>	
<b>たて抱っこ対面</b> <p>一番基本となる抱き方です。 使用者とお子さまがあ互いの顔 を見ることができ、コミュニケーションが取りやすい抱き方です。</p>	<p><b>お子さまが呼吸できているか常に確認してください。</b>特におねんね中のお子さまは窒息の危険性があるため、お子さまの顔を右または左に傾けるなど気道の確保を行ってください。</p> <p><b>睡眠中のお子さまの頭がぐらつかないように、フードの長さを調整してください。</b> フードだけのサポートで不安な場合は、セーフティボードを併用ください。</p> <p><b>お子さまが成長し、お子さまの頭が使用者の視界を遮る場合、おんぶや腰抱っこをしてください。</b></p>	<p><b>共通チェック項目</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 腰ベルトのバックルは、きちんと腰ベルトループを通っていますか？バックル抜け落ち時の落下予防になります。</li> <li>● ベルトが余りすぎている場合はテープ先端にあるゴムバンドでまとめてゴムでとめてください。</li> </ul> 
<b>たて抱っこ前向き</b> <p>お子さまがより広い視界を確保できるので、知的好奇心を刺激することができます。</p>	<p>お子さまが小さい頃はお子さまの鼻や口が抱っこひもに隠れてしまう可能性があります。 その場合は、タオルなどをおしりの下にひくなどをして位置を高くし、気道の確保を行ってください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お子さまの手足が腰ベルトやセーフティサポートなどに挟まっていますか？</li> </ul> 
<b>おんぶ</b> <p>長時間の使用に一番おすすめなスタイル。 両手が使えるので家事に最適。</p>	<p>おんぶはお子さまがもっともおねんねしやすい抱き方です。<b>おねんね中の首かっくんが気になる場合、セーフティボードの使用をおすすめいたします。</b></p> <p><b>背中のお子さまが手を伸ばして危険なものを触らないように注意してください。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 腰ベルトバックル、フィットバックルやセーフティバックルなど、全てのバックルはきちんととまっていますか？</li> <li>● ベルトは緩すぎていませんか？</li> </ul> 
<b>腰だっこ</b> <p>パパ・ママの足元の視界を確保できるので、お子さまが大きくなってしまって階段などの心配がありません。</p>	<p><b>肩にかけていない側のショルダーベルト（使用者の脇の下を通ったベルト）が下がりすぎないように注意してください。</b>ベルトが下がり過ぎると、お子さまの支えが浅くなり安定しなくなります。</p>	

これらのチェック項目に加え、抱っこをする際ぜひご注意いただきたい基本事項に世界でも推奨されているT.I.C.K.S ルールというものがあります。詳しくは、別紙をご覧ください。

# アドバイス

## ショルダーベルトの調節



### ベルトを短くする

アジャスターを持ち、余っている側のベルトを矢印の方向に引っ張ります。



### ベルトを長くする

アジャスターを立てるように持ち、下側のベルトを矢印の方向に引っ張ります。

## ゴムバンド



余ったベルトをまとめます。  
ショルダーベルト・ウエストベルト同様に、調節して余ったベルトは、先端から丸めてゴムバンドでとめます。

## 腰ベルト



腰骨の上周りの位置でフィットするようにバックルでとめます。バックルはカチッと音がするまで差し込んでとめてください。位置が低すぎると歩行の妨げになったり、体への負担が大きくなることがあります。

## 腰ベルトループ



腰バックルは腰ベルトループに通してバックルをとめて、余るベルトを腰ベルトループから抜き出してください。万一バックルが外れた場合に腰ベルトループにバックルがひっかかるようにします。

## セーフティベルト



セーフティベルトの締め具合は大人の指が2~3本入るくらいが目安です。お子さまの安全のために必ず装着する。

## フィットベルトがとめにくい方



先にフィットバックルをとめてから使用者が頭をくぐらせる方法。

## 腰に着用したままでまとめることができます。



ショルダーベルトを包むようにまるめて、本体ポケット口に付いてるまとめベルトを腰ベルトのまとめループに通し、ホックでとめます。

## マルチホルダー



バックのショルダースレ落ち防止や、おしゃぶりやケープ等をかけたりすることができます。  
この時フィットベルトのバックルは必ずとめて使用してください。

## セーフティサポート収納ポケット



セーフティサポートをポケットに収まるよう小さく折りたたんで入れます。

## 洗濯についてのご注意

- 洗濯については製品に縫い付けの組成表示ラベルをご参照ください。
- 色落ちする場合がありますので、他の洗濯物とは別けて洗ってください。
- 洗濯ネットに入れて洗ってください。  
バックルが付いてる製品は、バックルを留めてネットに入れてください。
- 軽い汚れの場合は、湿らせた布で汚れた部分をたたくようにして落としてください。
- 蛍光漂白剤入りの洗剤は使用しないでください。
- 脱水機、乾燥機の使用はしないでください。樹脂部品が破損するおそれがあります。
- アイロンはあて布を使用してください。

## 点検について

- ご使用前に、バックルなどの樹脂部品が破損したり、ベルトや生地などに破れ、ほつれ、傷がないことを確認してください。
- 異常がある状態で使用すると、事故につながるおそれがあります。

使い方にお困りの方はインターネットで検索してください。

buddy buddy Urban Fun 使い方

検索



※安全基準等により、仕様が予告なしに変わることがあります。

製品には万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら下記までご連絡ください。

**LUCKY** ラッキー工業株式会社

〒503-2423 岐阜県揖斐郡池田町青柳83-8 TEL.0585-45-7425  
SG登録工場 第31-001号

ホームページアドレス <http://www.lucky-baby.co.jp>

TL00033 NP17-04

## SGマーク制度について

SGマークは、製品安全協会が定めるSG基準に適合するものとして認証された製品に表示される安全・安心マークです。SGマーク付きの製品の欠陥により、人身被害が生じたと認められる場合、製品安全協会が事故原因、被害の程度などに応じて、賠償措置を実施する制度です。抱っこひもの場合は、お買い上げ日より3年以内が有効期間となります。

製品安全協会

東京都台東区竜泉2-20-2  
ミサワホームズ三ノ輪2階  
TEL 03-5808-3300

### ●賠償についてのご注意

SGマーク付き製品そのものが故障したとしても、その品質について保証するものではありません。あくまでも傷害などの身体的な損害(人的損害)について賠償する制度です。

### ●製品の欠陥により事故が起きた場合

事故が起きたら、すぐに製品安全協会へ連絡してください。  
(原則として事故発生日から60日以内に連絡してください。)

### ●事故の届出に必要な項目

①事故の原因となったSGマーク表示の製品  
・製品の名前、ロット番号  
・購入先、購入年月日

②事故発生の状況

・事故発生年月日  
・事故発生場所

③被害の状況

・被害者の氏名、年齢、性別、住所  
・被害の状況